

現代史について

1. I 類人文科学コースについて

I 類文系人文科学コース	
◎基本理念…現代の社会についての理解を深め、現代社会の基本的問題に対する基礎を培うとともに、思考力を伸ばし、適切かつ効果的に表現する能力を身につける。	
◎目標…21世紀に生きる地球市民として確かな見通しをもって主体的に生きるため、判断力と表現力を身につけ、国際化・情報化の進展する現代社会に対応できる資質を育てる。	
↓	
この目的のために、2年に現代史2単位、3年に現代社会演習2単位、必修の国語表現2単位をおく	
現代史…20世紀以降の「現代の世界の歴史」に日本の戦後史も含めて、主に世界史の教科書を用いて学習する。必要に応じ、レポート作成なども課していきたい。ここでの知識をもとに3年での現代社会演習や国語表現のテーマ学習の基礎をつくる。	
現代社会演習…教材としては、主に現代社会の教科書・副読本を使うが、必要に応じ新聞・TVニュースや統計資料、ビデオや映画なども利用する。討論・ディベートなどを含めて学び、環境問題・高齢化問題など社会問題を仲間とともに考える中で客観性をもった自分の考えを育てる科目として考えたい。特に国語表現との連絡のもとに、表現の面も重視する。	
国語表現…表現の基礎を身につけるとともに現代社会演習と連携を取りながらテーマを設定し、自らの意見を小論文やレポートとして論理的、的確に表現する力を身につけるものとする。	

2. 現代史について

授業の方法について

◎視聴覚教材をも用いつつ、必要な説明を行っていく。

◎世界史の教科書、または教科書にかわるプリントを適宜、配布する。

◎授業は、授業用プリントを準備する。クリアブックなどを準備して紛失しないよう注意すること。また授業用プリントは、回収・点検を行う。

◎必要に応じ、ビデオや参考プリントのまとめ・感想・意見レポート、他の人の意見についての支持・反論レポートなどを実施する。

◎考査は5～6回程度実施する。(各学期末考査と2～3回時間内に中間考査を行う)
(客観テストだけでなくレポート的な内容も含む。)

◎考査に準じる内容のレポートを2回程度実施する。

◎休み中に課題を課す。

◎出席点は一定以上の出席の場合加点する。ただし無届欠席や遅刻は減点要素となる。

◎評価は、考査・レポートを中心に各種の課題・提出物、出席点などを総合的に判断し決定する。

現代史シラバス

科目	現代史	講座	2年 I 類文系人文科学コース	単位数	2
主 題 と 目 標	1. 現代社会の問題を歴史的アプローチから探る。 2. 戦争と平和の問題を中心に20世紀の世界や日本の動きをテーマ史的に学ぶ。 3. 客観的事実をもとに、現代社会を生きる人間としての課題を考える				
履 修 に あ た っ て の 注 意 ・ 助 言	1. 授業中の私語・内職・携帯電話の使用など授業に集中しない態度や秩序を乱す行為に対しては、厳しく指導する。 2. 視聴覚教材を重視する。単なる知識の暗記ではなく、内容をいかに包括的に理解したか、自分はどのように考えたかなど主体的な学習態度を重視する。 3. 意見交換を求めるときがあるので新聞やニュースなどにもよく目を通しておくこと。				
授 業 計 画	1. イラン戦争など中東問題をもとに、現在の世界が抱えている問題を考える。 2. 第二次世界大戦について、その原因や戦争が引き起こした惨禍について学ぶ。		評 価 の 方 法 1. 考査、課題レポートや発表、休み中の課題などによって総合的に判定する。 2. レポートなど提出を重視し考査がよくてもよい評価になるとは限らない。 3. 単に知識を問うだけでなく、内容理解や筋道立てて自分の考えをまとめ、文章化して表現するといった過程を重視する。		
	5. 第二次大戦後のなかから日本がどのように復興されてきたのかを学ぶ。 6. 戦後の冷戦構造の成立と展開について、核兵器と平和の問題にもふれながら学ぶ。 7. 帝国主義化のアジアのすがたと解放運動について学ぶ。				
	8. 現在の世界の問題について考える。				
教材	教科書『詳説世界史B』(山川出版社)・副読本『最新世界史図表』(第一学習社)、およびプリント				